

# 報道資料

平成20年 8月11日  
(財) 奈良県中小企業支援センター  
地域結集型共同研究推進室  
担当：城家  
TEL 0742-36-8316

## 県内製薬メーカーによる新たなチャレンジ 「奈良発・OTC薬の協同ブランド構想」の推進

～ 本県初となる「地域資源活用企業化コーディネート活動等支援事業」の事業認定について ～

このたび、県内製薬メーカーによる新事業展開のプロジェクトが、(独) 中小企業基盤整備機構から「地域資源活用企業化コーディネート活動等支援事業」の採択（事業認定）を受けました。「地域資源活用企業化コーディネート活動等支援事業」に、県内からの申請案件が採択されたのは、今回が初めてです。(応募総数47件、採択件数15件、近畿での採択は本件のみです。)

### ○事業名

「奈良発・OTC薬の協同ブランド構想推進プロジェクト」

### ○事業内容

県関係機関の協力のもと、奈良県内の製薬メーカーが協同で、消費者の視点からの安全で選びやすいOTC薬のあり方とブランド化に関する協同ブランド構想の検討を行い、県内製薬メーカーの新事業展開による地域の活性化に繋がります。

※ **OTC薬**：薬局等で、医師の処方箋なしに販売される一般用医薬品のこと。主として、薬局等のカウンター越し（オーバー・ザ・カウンター）に販売されることが名称の由来。

### ○事業期間

助成交付金決定（本年9月を予定） ～ 平成21年8月

### ○助成金交付額

500万円を超えない範囲の定額（(独) 中小企業基盤整備機構から本年9月に通知される予定）

### ○実施体制

実施機関 (財) 奈良県中小企業支援センター（事務局）

運営体制 「奈良発・OTC薬の協同ブランド構想推進委員会」を設置し、外部専門家や有識者の助言・指導を受けながら、検討を行う予定です。

現時点での委員会参画者・機関等は、薬王製薬(株)他8社、奈良県製薬協同組合、県薬務課、県薬事研究センター、外部専門家等です。

### 「添付資料」

・参考資料

## 参考資料

### (背景)

奈良は、古来より生薬、配置薬の伝統があり、現在でも製薬業の集積があり、大手製薬メーカーからの受託生産等や独自のヒット商品を生み出している製薬メーカーも多くあります。しかし、配置薬の衰退、OTC薬の競争激化などにより、製薬業界は厳しい経営環境にあります。

**県内製薬メーカーの製造技術・ノウハウその他の地域特性や産業集積といった地域資源を利用した独自性のある取り組みにより、製薬業界の活性化と長期的な事業展開を確保するためのチャレンジが求められています。**

### (経緯)

当センターが中核機関として実施している**(独)科学技術振興機構の地域結集型研究開発プログラムにおいて、優良大和生薬(大和トウキなど)に関する研究成果の企業化を進めるため、奈良県及び奈良県製薬協同組合と検討を重ね、県内製薬メーカーによるOTC薬の協同ブランド構想を進めることしました。**

この協同ブランド構想は、地域資源である地域の産業集積と長年培ってきた製造技術をフルに活用し、トウキなどの薬用植物を使用した品目も考慮に入れたものとなります。

#### ※地域資源

奈良県の「地域産業資源活用事業の促進に関する基本的な構想」2. 地域産業資源の内容(1)農林水産物に、「トウキ・シャクヤク」等の「薬用植物」が、また、(2)「鉱工業品及び鉱工業品の生産に係る技術」に、「製薬」が掲載されています。

### (構想の理念)

国は、消費者が自分で判断できる程度の軽い症状を自らOTC薬を使って手当てする「セルフメディケーション」を推進してきました。

店頭には数多くのOTC薬が陳列されていますが、実際には少数のいわゆる有名ブランドが大部分のシェアを占めています。それは、消費者が各自の経験などに基づいて特定のブランドを指向したり、あるいはコマーシャルなどで知名度が高い製品を選びやすいためと考えられます。

このように、消費者は、実際には、正確な製品情報に基づいて選択しているのではなく、イメージが先行している傾向があると思われまます。

しかし、医療用医薬品に比べ安全性が高いOTC薬とはいえ、全く副作用がないわけではありませんので、本来、イメージではなく、自分の症状等にあった薬が選択でき、服用時の注意などの情報をわかりやすく受け取れることが必要ですが、現在販売されている個々のOTC薬では、それを可能にする製品づくりができていないと思われまます。

**古来からの製薬の伝統を受け継ぐ県内製薬メーカー各社が協同で、消費者視点でのOTC薬のあり方を再検討し、安全で選びやすいOTC薬とは何か、セルフメディケーションの推進のためにはどうすべきかについて共通認識を得ることにより、OTC薬市場における独自性のある事業展開に繋げようとするもので、社会的にも非常に意義があると考えています。**

具体的には、既存のOTC薬をもとに、品目、配合成分、剤形、表示方法などのあるべき姿を、外部専門家・有識者の指導・助言を得ながら、消費者の視点で洗い直します。

本事業終了後は、数年をかけて、我が国初の消費者にわかりやすいOTC薬のラインナップづくり、統一的なデザインの製作、各社が担当する医薬品の開発・製造承認申請、独自の流通・販売システムの構築などの本格的な事業化活動を行う予定です。

将来的には、販売現場からの製品・品揃えなどに関する顧客ニーズ情報をもとに再検討し、ラインナップ及び販売方法の完成度を高めて、販売店舗の拡大を図り、ビジネスを軌道に乗せたいと考えております。

### (地域資源活用企業化コーディネート活動等支援事業について)

地域資源を活用した新商品、新サービスの開発等の新たな取り組みの掘り起こしや地域資源の価値向上を目的として行われる勉強会、研究会に係る事業に対し、助成対象経費について、500万円以内の額(助成率10/10)を助成する(独)中小企業基盤整備機構の公募事業です。